

令和元年度 25人を基本とする少人数教育の計画的・段階的導入検討に係る調査の結果について

I 調査の概要

1 調査の目的

山梨県教育委員会では、一人ひとりの子供の個性を大切にしながら、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、豊かな心を育成することを目的に、小学校第1，2学年で30人，小学校第3学年以上で35人の学級編制を可能とする少人数教育「はぐくみプラン」を実施している。

本調査は、少人数教育推進検討委員会において検討している、よりきめ細かで質の高い教育を実現するための25人学級の導入に向け、学校現場の意見を把握するため実施する。

2 調査実施時期 令和元年9月9日（月）～令和元年9月30日（月）

3 調査対象

公立小・中学校の校長

	学校数
小学校	167校
中学校	80校
計	247校

4 調査内容

- ・25人学級導入について、学校の組織マネジメント及び学校教育推進の視点からの意見
- ・少人数学級編制の拡大に対して寄せられた教職員や保護者の意見や要望

5 調査結果の概要

アンケートは、「はぐくみプラン」を拡大して25人学級を導入する場合、どの学年から導入することが望ましいか、また、どのような教育効果が期待されるか等について調査を行った。さらに、各校の教職員や保護者から寄せられた意見や要望があった場合は、学校長が取りまとめて記入した。

調査結果については、まず小学校1年へ導入することが望ましいとする回答が最も多く、その理由として「一人ひとりによりきめ細かで手厚い指導が必要な時期だから」を選択する回答が最も多かった。

なお、少人数学級編制を更に拡大する場合に期待することや課題、教職員や保護者から寄せられた意見等については、少数ではあるが考慮すべき記述にも注視し一覧にまとめた。

II 調査結果

1 25人学級を導入するとしたら、まず、どの学年に導入することが望ましいと考えるか（問1）

「小学校1年」に導入することが望ましいとする回答が、61.5%と最も多かった。次いで、「小学校3年」,「中学校1年」の回答が多かった。

図1 まず、導入することが望ましいと考える学年

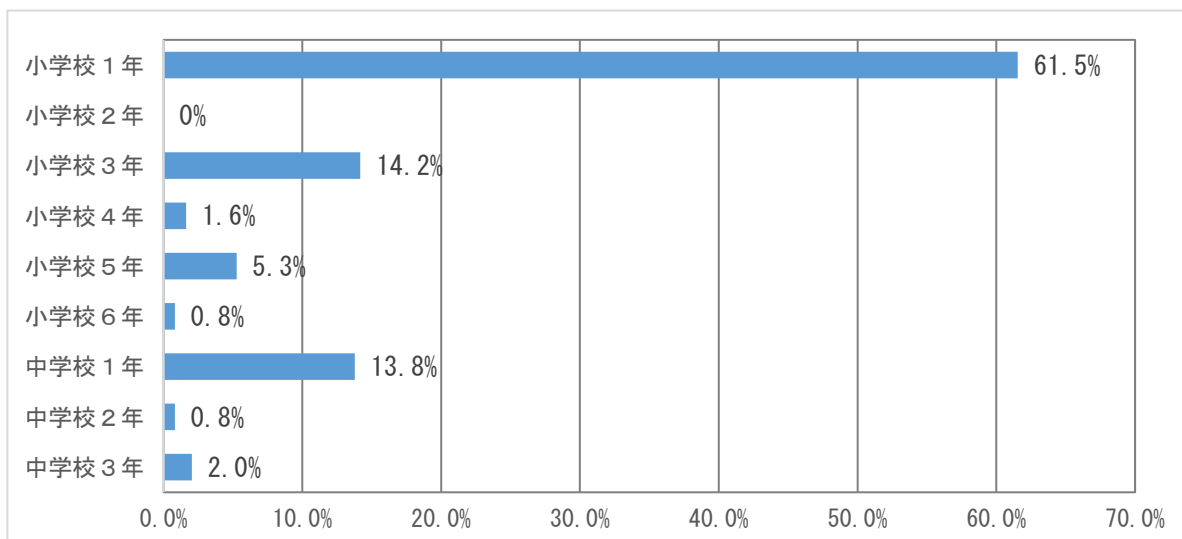


表1は、導入することが望ましいと考える学年の小中学校別内訳である。

「小学校1年」と回答した152校のうち、小学校長は75%（114校）、中学校長は25%（38校）であった。

なお、中学校長は、「小学校1年」や「中学校1年」という、各校種の入学年度への導入が望ましいとする回答が多かった。

表1 校種別に見る回答の内訳

	小学校内訳		中学校内訳		合計	
	校数	%	校数	%	校数	%
小学校1年	114	68.3%	38	47.5%	152	61.5%
小学校2年	0		0		0	
小学校3年	32	19.2%	3	3.8%	35	14.2%
小学校4年	3	1.8%	1	1.3%	4	1.6%
小学校5年	13	7.8%	0		13	5.3%
小学校6年	2	1.2%	0		2	0.8%
中学校1年	2	1.2%	32	40.0%	34	13.8%
中学校2年	0		2	2.5%	2	0.8%
中学校3年	1	0.6%	4	5.0%	5	2.0%
合計	167	100	80	100	247	100

2 導入することが望ましいと考える学年を選んだ理由（問2）

回答の多かった「小学校1年」、「小学校3年」、「中学校1年」を選んだ理由の内訳は下表のとおりである。

「小学校1年」への導入が望ましいと考える理由として、この時期は、きめ細かで手厚い指導、保幼少の円滑な接続、生活習慣を身に付けさせることなどが必要な時期だからとする回答が多い。複数の幼稚園や保育園等から入学してくる児童に対し、小学校生活に必要な学習習慣や生活習慣を身に付けさせるために、より小さな規模できめ細かな指導が望まれていると考えられる。

表2 導入することが望ましいと考える学年を選んだ理由（上位3学年の内訳）（複数回答可）

	小1	小3	中1
① 一人ひとりによりきめ細かで手厚い指導が必要な時期だから。	152	24	26
② 学習内容も難しくなり、学力の個人差が大きくなる時期だから。	6	29	26
③ 授業時数や学習内容が増加し、児童生徒の負担が大きくなる時期だから。	6	32	23
④ 生活習慣をしっかりと身に付けさせる必要がある時期だから。	147	10	20
⑤ 発達段階において悩みが多く、不安定な時期だから。	14	13	23
⑥ 人間関係が大きく変化する時期だから。	26	18	30
⑦ いじめなど、児童生徒間のトラブルが生じやすい時期だから。	4	24	25
⑧ 不登校及び不登校傾向を示す児童生徒が増える時期だから。	12	9	30
⑨ 幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続に必要なだから。	148	0	0
⑩ 学年間の円滑な移行に必要なだから。	5	12	6
⑪ 進学または就職などの進路を決定する時期だから。	0	0	2

3 問1で回答した学年に導入されなかった場合、次案として、どの学年に25人学級を導入することが望ましいと考えるか（問3）

次案として、「小学校3年」に導入することが望ましいとする回答が、27.1%と最も多かった。次いで、「中学校1年」、「小学校5年」の回答が多かった。

図2 次案として導入することが望ましいと考える学年

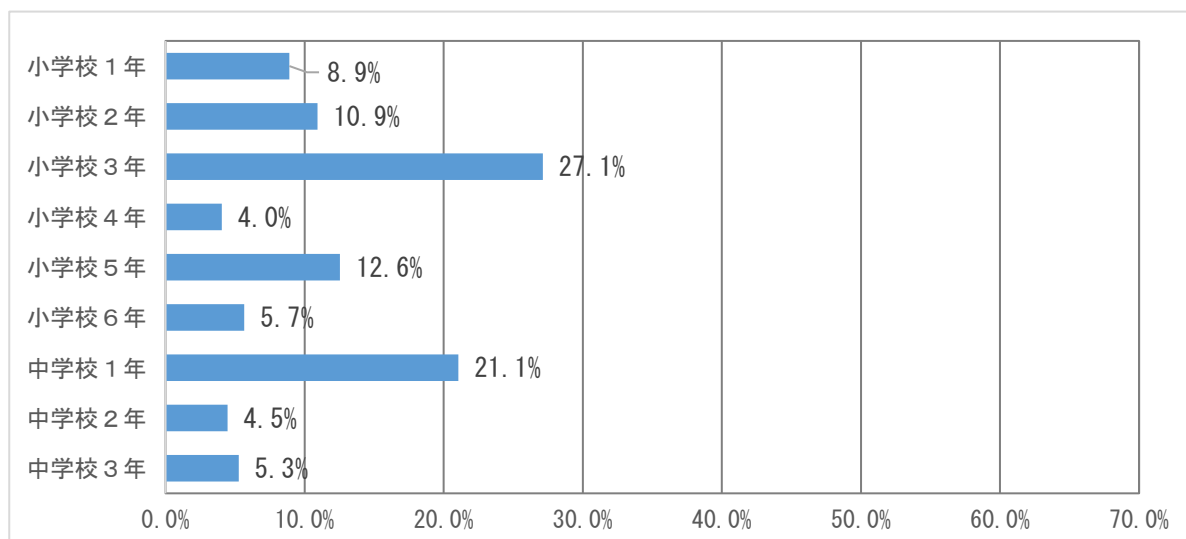


表3は、次案として導入することが望ましいと考える学年の小中学校別内訳である。

「小学校3年」と回答した67校のうち、小学校長はおよそ90%（60校）、中学校長はおよそ10%（7校）であった。

表3 校種別に見る回答の内訳

	小学校内訳		中学校内訳		合計	
	校数	%	校数	%	校数	%
小学校1年	13	7.8%	9	11.3%	22	8.9%
小学校2年	19	11.4%	8	10.0%	27	10.9%
小学校3年	60	35.9%	7	8.8%	67	27.1%
小学校4年	8	4.8%	2	2.5%	10	4.0%
小学校5年	28	16.8%	3	3.8%	31	12.6%
小学校6年	13	7.8%	1	1.3%	14	5.7%
中学校1年	25	15.0%	27	33.8%	52	21.1%
中学校2年	0		11	13.8%	11	4.5%
中学校3年	1	0.6%	12	15.0%	13	5.3%
合計	167	100	80	100	247	100

4 次案として、導入することが望ましいと考える学年を選んだ理由（問4）

回答の多かった「小学校3年」、「中学校1年」、「小学校5年」を選んだ理由の内訳は下表のとおりである。

「小学校3年」への導入が望ましいと考える理由として、この時期は、学習内容の変化が大きく、児童間のトラブルも生じやすい時期だからとする回答が多い。学習内容が徐々に抽象的になっていく段階で、個々の課題に応じた指導に加え、学習以外の指導においても小さな規模での指導をすることが望まれていると考えられる。

表4 導入することが望ましいと考える学年を選んだ理由（上位3学年の内訳）（複数回答可）

	小3	小5	中1
① 一人ひとりによりきめ細かで手厚い指導が必要な時期だから。	37	17	32
② 学習内容も難しくなり、学力の個人差が大きくなる時期だから。	56	29	31
③ 授業時数や学習内容が増加し、児童生徒の負担が大きくなる時期だから。	48	22	29
④ 生活習慣をしっかり身に付けさせる必要がある時期だから。	10	4	18
⑤ 発達段階において悩みが多く、不安定な時期だから。	27	24	39
⑥ 人間関係が大きく変化する時期だから。	31	18	44
⑦ いじめなど、児童生徒間のトラブルが生じやすい時期だから。	51	25	25
⑧ 不登校及び不登校傾向を示す児童生徒が増える時期だから。	16	15	43
⑨ 幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続に必要なだから。	0	0	0
⑩ 学年間の円滑な移行に必要なだから。	22	3	6
⑪ 進学または就職などの進路を決定する時期だから。	0	2	2

5 少人数学級編制を更に拡大する場合に期待すること（問5）

回答方法は自由記述である。247校中239校の学校長から回答があり、回答内容は期待される効果と要望の大きく2つに分類することができる。

期待される効果としては、生活面や学習面でのきめ細かな対応が可能になることや、保護者との連携、いじめや不登校等の諸課題への対応の充実等を挙げる回答が多かった。また、要望としては、全学年での更なる少人数化や、現在配置されている加配職員を維持した上での少人数学級の実現、特別支援学級における上限の見直しを求める回答が多く見られた。

なお、少数意見ではあるが、単級に対する配慮の充実を求める回答も見られた。

【期待される効果】

- ・児童生徒に対して、生活面や学習面できめ細かな対応が可能になる。（84）
- ・基本的なことが徹底でき、個別指導も充実するため学力が向上する。（60）
- ・担任等の事務量が減るため、児童生徒一人ひとりにかけられる時間が増える。（57）
- ・保護者との連絡が緊密になり、学校に対する信頼が得られる。（32）
- ・児童生徒同士の良好な人間関係を築くための環境が整えやすい。（クラス替えが可能になるなど）（31）
- ・特別な支援を必要とする児童生徒への合理的配慮が充実する。（28）
- ・いじめや不登校等の児童生徒が抱える問題に対し、早期発見・早期対応が可能となる。（27）
- ・校内の教員の数が増えるため、複数教員での組織的な指導が可能になる。（20）
- ・教員と児童生徒の信頼関係を築きやすくなる。（11）
- ・災害等学校安全への対応が充実する。（1）

【要望】

- ・全学年での30人学級（少人数学級）の実現。（学年によって学級数が変わらないように）（52）
- ・現在の加配を維持した上での少人数学級の実現。（28）
- ・特別支援学級についての見直し。（上限8人から引き下げ）（11）
- ・優秀な人材の確保。（人員の効果的な増員）（7）
- ・単級であるかによらず、全ての学校での少人数学級の実現。（7）
- ・施設・設備の充実。（6）
- ・単級アクティブの加配条件の緩和。（25人学級導入に伴い、26人から単級アクティブの対象としてほしい）（4）
- ・複式学級の解消。（できる限り）（3）

※回答数が非常に多く、同義と見なせる内容はまとめて集計した。また、（ ）内の数字は回答数を表している。

6 少人数学級を更に拡大するときの課題として考えられること（問6）

少人数学級を拡大する上で考えられる課題として、教室の確保の難しさ、教科によっては担当教師が不足する、という回答が多かった

表5 少人数学級を更に拡大するときの課題（複数回答可）

	校数
① 児童生徒同士の切磋琢磨や競い合いが不足するおそれがある。	20
② 児童生徒が多くの子と触れ合う機会が減る。	14
③ 球技や合奏、学校行事の取組など、集団活動がやりにくいことがある。	42
④ 個人の能力差が明らかになり、序列化がおきやすくなる。	10
⑤ 少人数学級による学習効果を高めるために、教師の力量の向上が必要となる。	57
⑥ 加配教員によるTTや少人数指導の方が高い学習効果が望まれる。	51
⑦ 授業のコマ数が増え、教科によっては担当する教師が足りなくなる。	119
⑧ 学校施設に余裕がなく、教室の確保が難しい。	125

その他の自由記述には、247校中110校の学校長か回答があり、回答内容は意見と要望の大きく2つに分類することができる。

最も多かった回答は人材の確保についての意見であり、次に多かった回答は、現在配置されている加配教員の維持を希望するものであった。また、少人数化を進めすぎることによって起こりうる弊害を危惧する意見も見られ、少人数教育の推進に関わり、学級規模の下限についても留意する必要があると考えられる。

【意見】

- ・人材の確保ができるのか。（教員の質の維持、向上、人数）（52）
- ・学年移行の差が大きくなるようにする必要があるのではないか。（全ての学年を30人にする、25人を導入する学年が進級したときの差への対応等）（16）
- ・財源の確保、施設設備等の整備。（教室、職員室、特別教室等）（15）
- ・25人学級を導入した場合、26人の学年で13人の編制になり、集団活動が限られる可能性が出てくる。（6）
- ・加配か少人数学級かを選べるようにしてほしい。（4）
- ・設備面の増加分の財源は市町村予算になると思われるが、予算化自体が困難であると思われる。（2）
- ・単級学年でも複級学年と同様に少人数編制ができなければ不公平である。（1）

【要望】

- ・現在配置されている加配職員を削ることがないようにしてほしい。（28）
- ・担任を持たない教員を配置してほしい。（4）
- ・学年が単級規模の場合でも2学級にできるようにしてほしい。（1）
- ・学校間格差、地域間格差が生じないようにしてほしい。（1）

※同義と見なせる内容はまとめて集計した。また、（ ）内の数字は回答数を表している。

7 教職員から寄せられた意見や要望等（問7）

回答方法は自由記述である。247校中244校から回答があり、回答内容は意見と要望の大きく2つに分類することができる。

意見としては、更なる少人数化は児童生徒の喫緊の課題に対応する効果的な施策だと期待する回答が多かった。また、問6その他と同様に、設備面や人材確保に対して心配する回答、少人数化を進めすぎることによって起こりうる弊害を危惧する回答も見られた。

要望としては、学年進行の段差を考慮した少人数化や、人的加配の充実を求める回答が多く見られた。なお、少数ではあるが、学校間で不平等がないよう全県一斉の導入を求める回答も見られた。

【意見】

- ・発達に課題がある児童生徒は増加傾向にあり、少人数学級の導入はきめ細かな指導の実現に効果的な施策であると思う。（75）
- ・学級数の増加に伴い、教室の増設も必要になるのではないか。（36）
- ・1学級の児童生徒数が、最大25人、最小13人となり、人数によっては活動しにくい場面が出てくる可能性があるのではないか。（14）
- ・加配等を含めた教員の確保ができるか心配である。（13）
- ・基礎・基本を身に付ける低学年では、細やかな指導と支援が求められる。（4）
- ・人間関係が固定化する、多様性に対する認識が狭くなる等が懸念されるため、児童生徒の実態を踏まえ、学級にある程度人数がいることが必要だと思う。（1）

【要望】

- ・現行の加配を廃止、または減少させ、少人数学級に振り替えることはしないでほしい。（純増）（90）
- ・教員定数を増やしてほしい。（定数改善、人材確保）（74）
- ・小学校3年生以上を30人学級にすることを優先してほしい。（67）
- ・人的加配（専科教員（音楽、英語、理科、図工等）、児童支援教員、SC、不登校対応等）の重要性を考慮し、優先的的配置や拡大を希望する。（35）
- ・特別支援学級についても見直しをしてほしい。（上限8人を引き下げ）（34）
- ・職員の配置は行い、学級数を増やすかどうかは学校の状況で柔軟に対応できると良い。（30）
- ・25人学級にこだわらず、複数担任制といった別の制度についてもあわせて検討してほしい。（15）
- ・能力のある人員確保のため、教職員の待遇改善も関連させてほしい。（12）
- ・制度が導入された場合、正規採用の教員の配置、事務職員の事務量の増加への配慮も希望する。（10）
- ・低学年に25人学級を導入すると、3年生への進級時の差が大きくなる。3、4年生の30人学級も併せて導入してほしい。（9）
- ・学級規模の大小ではなく学校の状況にあわせ、臨機応変に対応できる指導スタッフ等を配置してほしい。（4）
- ・小規模校においても職員が抱える分掌が多いので、定数増を求める。（4）
- ・中学校においても少人数学級編制を拡大してほしい。（2）
- ・中学校では教科のバランスを整えて配置してほしい。（2）
- ・単級アクティブ学級も改善してほしい。（上限の見直し、教員の時間数増）（2）
- ・学校間で不平等がないように全県一斉の導入をお願いしたい。（1）

※同義と見なせる内容はまとめて集計した。また、（ ）内の数字は回答数を表している。

8 現在の「はぐくみプラン」に対し保護者から寄せられた意見や要望等（問8）

回答方法は自由記述である。247校中165校から回答があり、似通った内容を集約しながら、主な記述を抜粋し一覧にまとめた。

はぐくみプランにより、きめ細かな指導が実現されていると感じている内容が多く見られた反面、はぐくみプランを知らない保護者も多く、児童生徒の学習面や生活面に対し効果的な施策であることから、何らかの方法で広く周知することを求める意見も見られた。

【意見や要望等】

- ・はぐくみプランにより、一人ひとりにきめ細かな指導をしてもらえていると感じる。
- ・小学校3年生への進級時に学級数が減少して、クラスの人数が増えることに不安や不満を感じる。
- ・現状の制度では、3年生以上で1クラス40人に近い学級もある。全てのクラスを35人学級にすることが最優先だと思う。
- ・25人学級の導入よりも、はぐくみプランによる30人学級編成を3年生以上に拡大することを期待する声が多い。
- ・県独自で少人数学級に向けての取り組みを行っていることは、ありがたい。25人学級の早期の実現を楽しみにしている。
- ・30人学級を進めてほしい。アクティブ加配ではなく学級増を期待する。
- ・はぐくみプランにより学級数が増えていたのに、学年が上がって元通りになってしまったときに、保護者から「なぜ？」という声が上がった。
- ・1, 2名の違いでクラスが1減になることあるが、柔軟な対応ができないかという声がある。
- ・人数だけでなく、児童の実態に応じて少人数学級編成が行えるようになるとよい。
- ・クラス替えができるようになることを望む保護者は多い。
- ・保護者の「はぐくみプラン」の認知度が低い。「はぐくみプラン」を知ることで、県の取組の素晴らしさを実感する保護者が多い。県の広報誌、マスコミ等を窓口に、積極的にアピールしてほしい。
- ・小規模校においては、きめ細かな指導を行うための県独自の配置基準が見直されるのではないかと不安になる。
- ・若い先生が増えていく現状において、複数の教員で子ども達を指導してもらえると安心できる。
- ・単級の先生は処理する仕事が多く大変だと思う。教員の多忙化解消のためにも職員数の増大を希望する。
- ・単級アクティブの加配はありがたいが、半日ではなく1日指導に当たってほしい。
- ・児童数が多いと教室が狭く、参観時に教室に入れず、先生が机間指導をするのも困難だと思う。
- ・70人の2学級編成の時には指導が難しかったが、次年度に転入生があつて3学級になった。その結果、学習面や生徒指導の面でもきめ細やかな指導が可能になった。多くの保護者からよかったとの声が寄せられた。
- ・単級の学校では少人数にできないのは不公平である。
- ・担任だけでなく、職員（副担任、不応加配、専科教員等）を増やし、多くの目で児童生徒を指導してほしい。
- ・制度の理解が深まる前に、「25人学級実現」といった言葉だけが先に立ってしまうことが心配される。
- ・中学校では、生徒数の減少に伴い教員定数減となる。部活動の指導体制が厳しい状況になっているケースがあるので、職員定数を増やしてほしい。
- ・少子化に伴い、県の複式解消加配の対象から外れてしまった。保護者はきめ細かな指導を希望している。複式解消加配対象の定数の引き下げや学区の柔軟な対応等により、様々な教育環境を維持し、他地区への流出を食い止めたい。

※主な記述の抜粋。